

平成31年度全国学力・学習状況調査結果からみる 学力の傾向と対策について（中学校）

徳島市教育委員会

この資料は、平成31年度全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、徳島市の子どもたちの学力の傾向をまとめたものです。徳島市と全国の平均正答率を比較したものを分析の基準とし、特に顕著であった内容について記述しています。

調査内容（3年生を対象に実施）

- 1 学力調査
 - ・国語（「知識・技能等」「活用等」を一体的に問う問題）
 - ・数学（「知識・技能等」「活用等」を一体的に問う問題）
 - ・英語（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を問う問題）
 - ※「話すこと」調査は参考値
- 2 質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境などについて

《本市の全体的な状況》

- 1 徳島市の国語と数学は、全国平均を下回り、英語は、全国平均を上回っています。
- 2 徳島市の国語、数学、英語ともに、県平均より低くなっています。
- 3 解答欄に記入がない無解答率が昨年と比べ、全国値を上回る傾向となっており、問題に対して最後まであきらめずに粘り強く解こうとする意欲と態度の育成が求められます。

学力調査から

- 国語では、学習指導要領の領域等の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべての領域において、全国平均を下回っています。
問題別集計結果では、「相手に分かりやすく伝わる表現について理解する」という設問では、全国平均とほぼ同じでしたが、出題1の「全国中学生新聞」を読んだ設問は、いずれも全国平均を下回っています。また、「伝えたい事柄について根拠を明確にして書く」という設問も、正答率が低く、全国平均を下回っています。
このことから今後は、これまで重点的に取り組んできた「話す・聞く能力」と「書く能力」を統合的に身に付ける取り組みを継続するとともに、すべての教科に共通する「正確に読み取る力」を育成することが必要です。
- 数学では、学習指導要領の領域等の「関数」の領域では、全国平均を上回っていますが、「数と式」「図形」「資料の活用」において、全国平均を下回っています。
問題別集計結果では、全国平均を上回ったのは、16問中、前半の問5までの4問でした。問題後半の「活用」に関する問題は、無回答率が高くなり、正答率が低く、全国平均を下回っています。「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」という設問では、全国平均を大きく下回りました。
このことから今後は、数量や図形などについての知識・理解だけでなく、「数学的な見方や考え方」を身に付けることが必要です。
- 英語では、学習指導要領の領域等の「読むこと」「書くこと」の領域では、全国平均を上回っていますが、「聞くこと」において、全国平均を下回っています。
評価の観点においても、「言語や文化についての知識・理解」では全国平均

を上回っています。「外国語表現の能力」で全国平均と同じで、「外国語理解の能力」は下回っています。

問題別集計結果では、全国平均を上回ったのは、21問中11問で、5問が全国平均と同じでした。問9の「与えられた情報に基づいて人物を説明する英文を書く」という設問では、全国平均を大きく上回りました。

このことから今後は、言語や文化についての知識・理解だけでなく、「外国語表現や理解の能力」を身に付けることが必要です。

生徒質問紙調査から

- 「学校の授業時間以外に1日当たり1時間以上勉強をしている」と答えた割合が、75.9%で全国値より高くなっています。「国語や数学、英語の勉強は大切だと思いますか」という質問事項では、国語・数学・英語ともに「当てはまる」と答えた割合が全国値とほぼ同じでした。また、「国語や数学、英語の授業の内容がよく分かりますか」という質問事項では、英語は、全国値を上回っていますが、国語・数学ともに全国値を下回り、学力調査の結果と同じ傾向と言えます。子どもたちの学力向上については、学校での授業が大切なことは言うまでもありませんが、「学校の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つ」という意識を持たせ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが大切です。
- 授業の中で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することについて、「当てはまる」と答えた生徒の割合が昨年に引き続き、全国値よりも低くなっています。授業の中で自ら考えをまとめた上で発表し、話し合うなど積極的に学習活動に取り組むことが必要です。
- 読書の時間に関する質問では、「学校の授業時間以外に1日当たり1時間以上読書をしている」と答えた割合が、12.3パーセントで全国値とほぼ同じでした。学校の図書室や地域の図書館の利用で、週に1回以上利用している生徒が2.3パーセント、「読書が好きですか」という質問事項で、「当てはまる。」と答えた割合が、62.1パーセントでいずれの数値も全国値を下回っています。今後も、子どもたちに、もっと本と出会い、読書の楽しさを味わわせる機会が必要です。

今後の対応について

- ◎ 各校ごとに自校の調査結果を分析し、傾向と課題を把握するとともに、その改善策の検討を行い、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善等に反映させていきます。
- ◎ 「正確に読み取る力」の定着を図るため、言語活動を通して、正確に理解し適切に表現する資質・能力を身に付けさせ、すべての学習の基盤となる国語力を高めていきます。
- ◎ 各校の学力向上推進担当教員を対象に、市主催の研修会を開催し、効果的な取り組み等について情報提供するなど、各校の取り組みを支援します。
- ◎ 基本的な生活習慣の形成や家庭における学習の充実に向けて、今後も各家庭へ発信してまいります。